人文科学とコンピュータ　15－3
（1992. 9. 11）

日本美術シソーラスデータベースの形成

五十殿利治　　福田博同

筑波大学

美術分野で必要とされる電子的情報データベースのうち、シソーラスを含んだ辞書情報データベースの試みについて報告する。

美術分野では用語そのものが歴史的意味を持つ故に、同一主題に複数呼称を持つことが一般的である。情報検索におけるシソーラスの有効性は論究される主題についての包括的概念からの検索にある。美術用語の辞書データベースを目指す方法論として、個々のディスクリプタの同義語関係、上位語・下位語関係、関連語関係をデータベース化する過程で明確にして行く方法について、問題点を述べる。

Compiling of the Thesaurus-Database of Japanese Art

Toshiharu Omuka　Hiroatsu Fukuda

University of Tsukuba

Among databases of electronized information which are necessary in the field of art, an attempt of a database of dictionary information which contains a thesaurus will be discussed. In art the term itself bears a historical implication and so in general a subject has plural names. In information retreaval system the significance of a thesaurus is in possible retreavals from a broader conception of the subject concerned. As a method seeking for a database of art terms, problems will be described regarding the way to clarify a thesaurus relations of synounyms, broader and narrower terms and related ones between individual descripters in the process of making a thesaurus.

1．はじめに

美術研究に望まれる電子的情報には、

①作品の所在情報

②作品の画像情報、

③図書や雑誌の目録・所在情報、

④雑誌論文等の索引・抄録情報、

⑤流派や作家、項目などの辞書情報、などがある。

現在、組織的にデータを蓄積し、オンラインもしくはCD-ROMで公開されているデータベースには、③の図書等の目録・所在情報（JAPAN-MARC(注1),LC-MARC(注2),NACSIS-IR(注3)など）と、④の論文の索引・抄録情報（Art Index(注4)やArts & Humanities Citation Index（略称AHCI)(注5)）が挙げられる。

日本美術史に関して云えば、これらに含まれる若干の情報が利用できる状態で、①については1989年から文化庁で「文化財情報システム」計画(注6)や②について国立民族学博物館ホロテークシステム(注7)や岐阜県美術館ハイビジョンデータベース(注8)などデータベース化が進められている。④及び⑤については美術関係の学会で構築して行く必要がある。

④の論文の索引・抄録の電子的情報の有効性については、例えば、ロシア・アヴァンギャルド絵画運動についての論文をAHCIの冊子体で網羅的に検索した場合、20時間かかるものを、オンラインで検索した場合、出力時間を含め5分程度で検索できることで証明される。

引用索引誌とは、ある論文と引用した論文は類似主題である、との考えで作成された索引誌で、著者索引、主題索引、引用索引によって芋づる式に関連する論文が検索でき、日本でも作成が望まれている。しかし、これら索引抄録情報を作成するのは、データベースを組織的に作成できる機関もしくは民間企業の方が効率的である。（例えば、国会図書館作成の雑誌記事索引(注9)などはCD-ROMでも今秋発売予定となっている）。

そこで、筑波大学日本美術シソーラスデータベース作成委員会では、科学研究費補助金データベース公開促進費の援助を受け、⑤のうち、シソーラスを含む日本美術絵画編の辞書情報を構築することとした。

2．計画の目的

そもそもシソーラスは膨大な専門的主題語（以下、ﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀと言う）をグルーピングし、概念を階層化することで、より上位の概念からも検索可能とすることを目指したもので、シソーラスからの検索の有効性は検索もれを防ぐことにある。

例えば、俵屋宗達というﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀでシソーラスを作成した場合、同一人名として喜多川宗達、野村宗達、野々村宗達、伊年、對青軒で論説され、さらに、より上位の概念として宗達派、琳派もしくは宗達・光琳派、あるいは光悦流という流派・様式として論じられる。さらに、流派の属する時代や地域区分から、江戸時代絵画、徳川時代絵画、江戸前期絵画、もしくは近世絵画、あるいは京都美術史、日本美術、東洋美術などのより包括的な概念で論ぜられる。

これらは論文名中に宗達という文字がなくともシソーラスを作成することで包括的に検索できる。特に著名でない主題の場合、シソーラスが作成されると、流派名をブラウズでき、フリータームによる検索より有効な場合が多い。

美術に関するシソーラスでは、1990年にPetersen, Toniが"Art & Architechture Thesaurus"(以下AATと略す）を著したが(注10)、日本美術に関するシソーラスとしては大まかで、階層関係の間違いや、遺漏した主題が多く、日本美術シソーラスとするには妥当ではない(注11)。国内では上田修一・伊藤可恵が"美術シソーラスの問題点ーシソーラスの試作とその検討"(注12)でシソーラスを試作している。上田は"美術分野のシソーラス"(注13)でカテゴリー案を提示しているが、参考までに以下に示す。

- 日本
  - 建築
  - 絵画
  - 彫刻
  - 工芸
    - 木工、漆工
    - 陶磁、ガラス
    - 染色
  - 書
  - 題材・模様
  - 文化・歴史
  - 様式・流派

上田によると、絵画カテゴリーには様式名、材料名、技法名が含まれ、様式名は上位下位の関係を明確にし難く、階層化はせずに列挙的に表示し、代表的画家を含めておけば、その範囲を暗示的に示し、検索に役立つとしている。また、ﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀの収集には、人名、

作品、地名等の固有名詞が多く、極めて多数の標題を抽出しなければならず、多くの労力と時間を要するので、標題や文章よりも「新潮世界小辞典」(注14)のような包括的辞典などの辞典類を用いたほうが効率的、としている。さらに、シソーラスの他に作品名、作者名、地名などの典拠ファイルを作成し、必要に応じてシソーラスと対応させることで、相互関連を行おうとしている。しかし、美術研究者にとって必要な電子的情報は、雑誌論文に含まれる主題であり、代表的画家だけではなく、論ぜられた画家主題や作品主題、あるいは用語である。また、分類担当の図書館員にとっては図書や展覧会カタログに含まれる画家主題や作品及び用語である。従って、論ぜられた画家主題や作品主題あるいは用語の概念を電子的情報で明確にすることが望まれている。近年のコンピュータ技術の発達によって、人文科学の研究者もパソコンで個人データベースを構築したり、一太郎の利用は当然として、jLaTex(注15)で論文を作成する研究者も出現する状況である。

また、筑波大学学術情報処理センターでは、UTOPIAと称する学術情報検索システム(注16)を構築しており、パソコンデータを大型計算機にアップロードし、情報検索システムを構築できる環境にある。情報処理関係委員の指導のもとに、①美術研究に望まれるシソーラスを含む辞書情報の構築、②大型計算機の情報検索システムへアップロードするためのパソコン上データの構築方法の実験を主目的に、副次的には入力担当学生アルバイトへのパソコン教育も含め、「日本美術シソーラスデータベース絵画編」をUTOPIAのデータベースとして公開できるようプロジェクトを編成した。

3．ﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀの収集と問題点

ﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀの収集は前述したように、一次資料を重要視した。一次資料では、①J-MARC(1979-1991)及び筑波大学附属図書館所蔵(1872-1991)の美術関連図書（和装古書、展覧会カタログを含む）。②「日本学術資料総目録」(注17)などの博物館収蔵品、③「雑誌記事索引」の芸術関係を累積した「芸術・美術に関する17年間の雑誌文献目録」(注18)や、國華索引(1889-1981)(注19)あるいは日本東洋古美術文献目録(1868-1935)(注20)に含まれる雑誌論文から掲載頻度の高いﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀを選定した。

二次資料では、①日本美術事典／谷信一：野間清六編(注21)、②日本絵画史図典／山根有三監修(注22)、③新潮世界美術事典(注14)、④本朝画史／狩野永納著(注23)、⑤増訂古画備考／朝岡興禎著；太田謹補(注24)、扶桑名画伝／堀直格著(注25)、⑥原色図典日本美術史年表／太田博太郎他監修(注26)、⑦日本美術史事典／石田尚豊他監修(注27)、⑧ A dictionary of Japanese artists / Laurence P. Roberts(注28)、⑨美術研究所の「日本美術年鑑」(注20)を基にした、近代日本美術事典／河北倫明監修(注29)から選定した。

基本的には、一次資料に含まれるﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀは全て収集すべきであるが、第一年次計画として人名を中心に頻度の高い主題600件を選定し、４年計画で2400件を予定している。

ﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀの種類も時代によって異なる。近代以前では、日本東洋古美術文献目録の論文数で調査すると、画論等に関する事項は3%、技法に関する事項が1%、様式や流派に関する事項が16%、作家に関する事項が39%、作品に関する事項が35%と近代に比べると作家名不詳が多い関係で作品に関する事項が多くなる。さらに近代以前では、同一作家の異なる名称からの論説が多く、その同定が重要になってくる。

近代美術では作品より、作家に関する基本的な情報が必要となる。作家個人に関する情報は画集や展覧会カタログから収集されるが、収集すべき作家に対する「評価」問題があり、これまでほとんど系統化されることはなかった。唯一、出版物として前述の美術研究所発行の「日本美術年鑑」の蓄積を土台にした「近代日本美術事典」があるが、現代美術では十分とは云えない。近代美術史の場合、対象がつねに拡大するので恒常的に基礎データの収集が不十分であるが、これについてはすこしずつ状況が好転している。各地に設立された美術館の活動で展覧会、とくに回顧展の開催のため、作家の履歴、作品に関する所在調査などが積極的に進められ、展覧会カタログに詳細に記述されるようになった。本プロジェクトでも、こうした美術館の展覧会カタログなしには、入力データの収集はほとんど不可能である。「評価」問題についても、こうした美術館における展覧会が、ある展望を与える。美術館の数が限られていた時代には、どうしても美術館は必要以上の権威を求められ、どこそこの美術館で作品が収蔵される、あるいは展示されることが、作家や作品の評価に直ちに関係していた。今日でも美術館はそうした問題と無縁ではいられないが（なぜなら専門家と

しての判断なくして作品収蔵も展覧会企画も実現しない）、展覧会数が大幅に増加することにより、特に地方美術館が地元出身の作家（東京に出て教育を受けた作家の場合もあるが）をさかんにとりあげることにより、評価がより自由にくだせるようになったと云える。

ﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀの選定には、今回、「絵画編」という名称にしたので、古くは本阿弥光悦の例もあるが、現代美術では特に、従来の、絵画や画家という概念では対応しきれない仕事や作家が多数でてくるので、名称の変更も必要となる。

4．ファイルの設計

大型計算機にはＭＳ－ＤＯＳのテキストファイルからアップロードするので、パソコンのデータもＭＳ－ＤＯＳのテキストファイルの形式であれば、ワープロから変換したものでも良い。しかし、パソコン上でデータを処理するにはデータベースソフトの方が効率的であるので、世界的に定評のあるdBase3+(注30)のスーパークローンソフトdBXL(注31)を使用し、日本語FEPはdBXLと相性の良いATOK6(注32)を使用した。

ファイルは、当初、親ファイルと著者典拠ファイル、作品典拠ファイル、時代年代テーブルファイル、事項ファイルを作成する予定であったが、複数ファイルを作成して複雑にするより、当面、親ファイル１つだけ作成し、必要な全てのフィールドを入れることとした。

フィールド名は分かりやすく漢字とし、属性も全て漢字フィールドとした。表１にファイルの構造を示す。

表１ JART-Pファイル

ﾌｨｰﾙﾄﾞ名	長さ	内 容	ﾌｨｰﾙﾄﾞ名	長さ	内 容
時代	16	美術時代区分（別紙）	代表作２	40	代表作２
分野	24	主題の大項目	作２素材	20	代表作２の素材、形態等
中主題	24	主題の中項目	作２年	8	代表作２の制作年
主題	26	主題	作２国宝等	4	代表作２の国宝.重文.重美の別
読み	30	主題の「よみ」	作２所蔵	40	代表作２の所蔵者
YOMI	30	主題の英語形読み	作２典拠	100	代表作２の文献的典拠
名読み	30	主題の名前からの「よみ」	職業等	20	本人の職業等
名号等	250	名、別名、字、号など	年譜	250	年譜的解説
同読み	250	名号等の「よみ」	続年譜	250	〃　　つづき
中主題記号	10	中主題の固有記号	得意分野	100	得意分野
固有記号	10	主題の固有記号	画風	200	画風
主題区分	1	主題区分1:人名.2:事項.3:作品	画壇地位	200	画壇の地位、風評
生年	10	出生年もしくは始年	主題旧字体	26	主題の旧字体
没年	10	没年もしくは終了年	SH	6	シソーラス記号
推定始年	5	ソートのための始年	NDC	8	日本十進分類表
出身地	250	出身地および成長した土地	DDC	8	ﾃﾞｭｰｲの十進分類表
父名と家業	200	父名と父の家業	SHENG	40	中主題英語
子名	100	子名	SUMM1	250	英語年譜的解説
その他の族	100	母、兄弟、門弟等の著名人	SUMM2	250	英語年譜的解説つづき
師匠等	80	師匠、出身学校等	DATE	4	データ作成年月
代表作１	40	代表作１	文献１	60	典拠となる文献１
作１素材	20	代表作１の素材、形態等	文１出版者	20	〃　　の出版者
作１年	8	代表作１の制作年	文１出版年	4	〃　　の出版年
作１国宝等	4	代表作１の国宝.重文.重美の別	文献２	60	典拠となる文献２
作１所蔵	40	代表作１の所蔵者	文２出版者	20	〃　　の出版者
作１典拠	100	代表作１の文献的典拠	文２出版年	4	〃　　の出版年
			備考	250	備考
小計	1668		小計	2242	合計 3910

5．フィールドの特徴と問題点

1) 時代区分

時代区分は政治史の事件が目安とはなるが、美術様式変遷が主となり、美術史研究の時期、あるいは研究者によりその区分も呼称も異なる。前掲の日本絵画史図典、日本美術史年表、日本美術史事典の間でもそれぞれ若干異なる。区分のゆれに対しては、同義語として関連づけ、相互参照できるようにする。時代の変わり目の主題については、代表作の属する時代区分とした。

西暦	時代区分	含まれる時代・様式区分名 (～時代,～美術,～文化,～様式)
古代	先史・古墳時代	上古、石器、金石、古墳、縄文、弥生、上代、太古
538 645 663 672	飛鳥・奈良時代	推古、飛鳥朝,飛鳥(538-663,671)飛鳥後期(645-675),奈良時代(645-794),奈良前期(645-710),白鳳(645-710),寧楽,奈良後期(710-794),天平(710-794),奈良朝
794 951	平安時代前期	弘仁時代、弘仁貞観時代、藤原,平安,平安朝,
969	平安時代後期	藤原,王朝,平安後期(894,901,951,969-1185)
1185 中世 1333 1336 1338	鎌倉・南北朝時代	中世,中世初期,鎌倉(1185-1333),吉野(1331-1392),南北朝(1331-1392)
1392 1467 1568	室町時代	中世,中世後期,足利(1336-1568),北山(1398-1467),東山(1467-1531),戦国(1532-1600)

西暦	時代区分	含まれる時代・様式区分名 (～時代,～美術,～文化,～様式)
1568 近世 1571 1573 1615	桃山時代	近世(1568-1624),安土・桃山(1568-1615),戦国(1532-1600),聚楽
1715	江戸時代前期	近世,江戸初期,徳川,慶長元和(1596-1623)江戸前期(1615-1715,1736),元禄(1688-1703)
1716 1736	江戸時代中期	近世,徳川,
1804	江戸時代後期	近世,江戸末期,徳川末,化政(1804-1829),幕末
1868 近代 1945	近代	明治(1868-1911),明治・大正(1868-1925),大正(1912-1925),大正・昭和前期(1912-1945)
現代	現代	戦後(1945-),昭和後期(1945-)

2) 分野・中主題・主題

シソーラスの作成すなわち、分野・中主題・主題の階層関係を作成することも本プロジェクトの目的である。国際標準の美術シソーラスを目指したAAT(注33)は日本美術関係としては役立たないことを前述したが、LCの件名標目表やAHCIでも収録論文件数の少なさから同様のことが云える。日本における美術研究雑誌や論文目録の目次や索引は、それぞれ同義語関係、上下関係、あるいは関連語関係すなわちシソーラスを何等かの意味で形成している。代表的な索引の絵画関連分野の構成を以下に紹介する。

A)國華　(強調文字が展開される主題)

- ●形態（**図版**／論文／雑録）
  - ●分野（**絵画**／彫刻／建築／工芸／書）
    - ●地域（**日本**／中国／朝鮮／その他）
      - ●画家（名号順／**無著者**）
        - ●時代順主題（正倉院／仏画神道絵画／**やまと絵**／肖像人物／漢画／近世絵画）
        - ●画題・材料別主題（障壁画／扇面／風俗）

●形態（図版／論文／雑録）
●分野（総記／絵画／彫刻／建築／工芸／書）
●地域（日本／中国／朝鮮／その他）
●時代順主題（総説／仏画神道絵画／やまと絵／肖像画／中世漢画／狩野派／近世漢画諸派／宗達光琳派／南画／円山四条派／浮世絵／近世諸派／近世風俗画／洋風画）

B)日本東洋古美術文献目録

國華ほど明確に分類されないが、各主題は適宜、地域別、材料別、時代別に細分される。

●分野（総説／絵画／日本画家／支那画家／書／彫刻／建築／工芸／考古学関係／歴史関係／其他
●形態的主題（総説／文様・模様・図案／色・染色／文房四宝／印刷／書籍）
●地域（全般／東洋／日本／支那／・・）
●時代順主題（全般／上古／飛鳥／・・・）
●分野（総説／絵画／日本画家／支那画家／書／彫刻／建築／工芸／考古学関係／歴史関係／其他
●地域（総説／日本美術／支那美術／・・・）
●時代順主題（画論・美学／美術史／仏教美術／神道美術／やまと絵／漢画／材料／画題／所蔵）
●材料等（絵巻関連／大和絵論／土佐派／芦手絵／歌仙絵／・・）

C)芸術・美術に関する×年間の雑誌文献目録

雑誌記事索引とほぼ同様の構成である。主題は50音順と階層化されたものと混在している。

●分野（芸術・美術一般／芸術理論／芸術史・美術史／絵画／書／彫刻／写真／工芸）
●中主題（海外／回顧・展望・年表／芸術祭・芸術史／芸術時評／人物評伝・追悼／日本芸術・日本美術／美術用語）
●50音順主題（芸術家・美術家／芸術と社会・経済・・・／現代芸術・現代美術・・・デザイン・・・）
●主題細分（前衛芸術・抽象芸術・ﾘｱﾘｽﾞﾑ）
●主題再細分（ｱﾝﾌｫﾙﾒﾙ／ｵﾌﾞｼﾞｪ／...）
●分野（芸術・美術一般／芸術理論／芸術史・美術史／絵画／書／彫刻／写真／工芸）
●理論・材料・美術史の各50音順（絵画技法／絵画論／水墨画／題材／抽象画／追悼／浮世絵／絵本・挿絵・ｸﾞﾗﾌｨｯｸ／絵巻／劇画・漫画／幻想絵画／障壁画・壁画／版画／仏教絵画／文人画／日本画一般／江戸時代まで／明治以降／東洋／西洋）
●流派の50音順（伊藤若冲・岩佐勝以（又兵衛）・・・宗達・光琳派・・・洋風画）
●個々の画家の50音順（酒井抱一・渡辺始興・曾我蕭白(ﾏﾏ)）

D)日本絵画史図典

●時代順大項目（先史・古墳時代／飛鳥・楢時代／平安時代／鎌倉・南北朝時代／室町時代／桃山時代／江戸時代／近代）
●時代細分（江戸時代前期／江戸時代中期／江戸時代後期）
●流派・様式主題（漢画系／やまと絵系／琳派／風俗画／浮世絵）
●主題細分（探幽と江戸狩野派／山雪と京狩野派／久隈守景と英一蝶／漢画諸派／宮本二天と松花堂昭乗）

各目録等の項目設定や階層化は、個々の目録等の目的で異なり、シソーラス作成の困難さを島尾新は"検索システムと索引言語"(注34)で以下の問題点を挙げている。①同義語の統一（例：「絵巻」か「絵巻物」か。「絵巻」と「画巻」の同義性は。）、②同一用語のさまざまな意味（例：「水墨画」「絵巻」。技法か作品群の絵画現象か）、③複合語分割（例：「源氏物語絵巻」「慕帰絵詞」。源氏物語・絵巻は分割、慕帰絵詞は非分割。「源氏物語絵巻」と「源氏絵」との関連の問題）、④複数の上位概念の存在（例：「源氏物語絵巻」は「源氏絵」「絵巻」双方の下位概念）、⑤歴史用語の認識の違いによる差異（「白鳳時代」「奈良時代前期」は同一時代を指すが用語に含む意味の違い）など。

これらを考慮して美術用語シソーラスを作成するには、「ﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀは排他的でなければならない」というJICSTのシソーラス概念とは異なるが、同一主題や、その上位概念を複数作成する方向を認め、概念の各要素のフィールドを設ける方法が賢明と思われる。従って、中主題ー分野のフィールドには場合により、複数概念を句切り記号付きで入力し、後処理を行う。

3)YOMI,読み,名読み,名号,同読み

名号には、名、号、字、諱、通称等を調査できた範囲で記入し、その典拠文献を（）内に記入した。「同

読み」は大型計算機でindex fileで処理できるよう、名号と読みを対応させ、句切り記号付きで複数データを入力した。

4)生年,没年,推定始年

生年,没年で推定年が確立している場合、xxxx?とし、確立していない場合、未詳と記載するが、時代順にソートするため推定始年フィールドを設けた。

5)出身地、父名と家業、子名、その他の族、師匠等

出自関連フィールドで、画家の精神形成の傍証として論じらる。出身地、師匠等でソートすることで地域美術や流派がグルーピングできる。師匠等は複数記入され、例えば呉春のように与謝蕪村門でも円山派でも検索できるようになる。

6)代表作関連フィールド

ファイルの大きさから２作品だけを関連づける。作品、所蔵から検索することを考慮している。

7)本人の職業等、年譜的解説、得意分野、画風、画壇地位

出自関連フィールド、作品フィールド、年譜的解説関連フィールドが辞書情報の「解説」に含まれるが、それらを要素ごとに区分けし、後処理をすることで、年表や流派事典、作品辞典も作成できる。従って、年譜的解説フィールドは年･事績、年･事績の繰り返しで、句切り記号で後処理できるようにした。

人名・事績に関する冊子体の基礎資料としての画賛、款記、日記や「本朝画史」などの典拠を載せた「古画備考」、「原色図典日本美術史年表」(注26)や集英社日本美術絵画全集(注35)などの方針は正しく、学術的辞書を目指す本データベースでもこれらの基礎資料を参考に典拠を載せる方針とした。近代美術では前述の「近代日本美術事典」(注29)や各種展覧会カタログが基礎資料となる。

8)SH,NDC,DDC,SHENG,SUMM

SHはシソーラス番号。これは今回のシソーラスが完成した時点で付与される。NDCは日本で最も多く採用されている日本十進分類法番号でいくつかの図書には、NDC番号が付与されている。DDCは米国で最も多く採用されている十進分類法で、ほとんどの図書に SHENG (Subject Heading英語形=件名) と共に付与されている。SUMMフィールドは英文の年譜的解説で、これらのフィールドを作成することで変換テーブル表ともなり、分類の違いを明確化でき、本データベースを欧米の図書館で利用した場合、有効である。

9)文献関連フィールド

典拠文献の書誌的事項を入力する。このフィールドは年譜的解説等で記入した典拠文献名だけを複数記入して別に典拠文献ファイルを作成した方が効率的とも考えられ、そのように変更することも考えている。

入力方法と問題点

入力はパソコン入力を前提とした。筑波大学では、１年生全員に学術情報処理センターで教育用計算機による情報処理教育を実習しており、人文科学の学生もワープロ、パソコンに対する拒絶反応は比較的少ない。データ入力は外注方式を採らず美術関係の学生アルバイトとしたので、dBXLで作成したプログラムは対話方式とし、メニューに日本語FEPであるATOK6の簡単な操作方法を加え、さらに市販の入力ゲーム付きのフロッピーを購入し、慣れさせた。下記は日本語FEPの簡単な操作方法の1部である。

漢字変換の方法（１）

○CTRLｷｰとXFERｷｰを同時に押す→以下［^XFER］と表す。

右下に連ローマ字漢字とでる。

ローマ字で「MATU」と入れると「まつ」と黄色く表示され、XFERｷｰを押すと松、あるいは末などに変換される。（改行で決定）

＜後略＞

新人も３ヶ月程度で入力に慣れ、慣れるとdBXLのｺﾏﾝﾄﾞの一部も覚えるようになった。専門的知識も豊富になり、当面は勉学と調査や入力作業できびしいが、長い目でみて学生たちの財産にもなると思える。

問題点としては、JIS第二水準漢字の入力が手間取ること、ファイルのバックアップを忘れ、ファイルが壊れた場合が幾つかあったことが上げられ、さらに、第二水準以外の文字に対して、JIS補助外字を導入すべきかの検討が必要になる。今後の課題としては、画像情報があってはじめてこれらの解説も生きて来る訳で、それらを作成している機関とのネットワークが重要になる。そして自然科学系の研究者のようにＬＡＮあるいは電話回線で画像を含むこれらのデータをやりとり出来る時代が来るのであろうか。

注

1) 国会図書館が作成する和書の機械可読データベース。UTOPIA(注12)には1979年から1992年5月現在で約76万データが蓄積され、NDC分類700,720のうち、日本美術関係は4〜5千件ある。

2) 米国議会図書館所蔵の機械可読データベース。1968年から1992年5月現在で364万件。日本美術関係は、DDCの759.52や書名中の'Japan@ Art@'等で約1000件。

3) 学術情報センターが1984年から開始した全国の大学図書館の図書、雑誌の書誌・所在目録データベース。分類や件名はオプションなので日本美術関係のデータ数は不明。

4) The annual art sales index. watercolours and drawings. Weybridge, Surrey : Art Sales Index. 1975-

5) Art & Humanities Citation Index / Institute for Scientific Information. 1975-

6) 文化財情報システム（文化庁）の計画について／髙見沢明雄.情報管理,33(9), P.841-843. 1990.

7) 博物館と情報／中山和彦. 情報処理学会研究報告 91-CH-12-10, p.57-64, 1991.

8) 美術館所蔵作品のデータベース化／福森大二郎. 情報処理学会研究報告,91-CH-8, P.1-6. 1981.

9) 雑誌記事索引：人文科学編／国立国会図書館参考書誌部監修.東京：日外アソシエーツ, 1949- CD-ROMの収録年は不明。

10) Art & Architecture Thesaurus / Toni Petersen.,New York : Oxford Univ. Press, 1990

11) 日本美術は時代区分と様式区分に分かれる。時代区分は先史、中世、原始、古代、近世、現代に分かれるが、中世の位置が間違えている。

```
<styles and priods by region>
East Asian
  Japanese
    <Japanese periods>
      <Japanese prehistoric periods>
        Pre-pottery
        Jomon
          Proto-Jomon
        .          「先史」から
        .            現代まで6項目
      <modern Japanese periods>
      <Japanese styles>
        <Japanese architecture styles>
          Daibutsuyo 「大仏様」から
          .          「禅宗様」まで16項目
          Zenshuyo
        <Japanese decorative arts styles>
        <Japanese lacquer styles>
          Negoro
        <Japanese pottery styles>
          Agano
          .  「上野焼き」から「焼き締め」
          .  までｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ順に25項目
          Yakishime
        <Japanese painting styles>
          Ami School
            「阿弥派」から「洋画」まで
            ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ順に26項目
          Yoga
        <Japanese printmaking styles>
          Benizuri-e
            「紅摺絵」から「浮世絵ー横浜絵」
            までｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ順に22項目
          Ukiyoe
          Edo-e
          Hanabusa School
          .
          Yokohama-e
        <Japanese sculpture styles>
          Chuguji
            「中宮寺」から「運慶」まで
            ｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ順に7項目
          Unkei
```

様式区分は①「建築」、②「装飾芸術」、③「漆芸」、④「陶芸」、⑤「絵画」、⑥「版画」、⑦「彫刻」に別れ、各分野は下位概念（中主題または主題）のＡＢＣ順に列挙される。

「絵画」のﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀはＡＢＣ順に列挙。〜派は〜schoolと英訳される。Ami School=阿弥派から、秋田蘭画、破墨、長谷川派、海北派、狩野派、唐絵、春日派、巨勢派、円山派、長崎派、南蛮、南画、奈良絵,日本画、大津絵、Shijo=四条派、Soga(Japanese painting style)=曾我派、宗達・光琳派,Takuma=詫磨派,水墨画,Sumiyoshi(painting style)=住吉派、土佐派、雲谷派、やまと絵、Yoga=洋画の26主題で、鳥居派と浮世絵（英派も含まれるが、、、）は「版画」に含まれている。

個々の作家は芸術分野では当然、ﾃﾞｨｽｸﾘﾌﾟﾀとなるが、この際除外したとしても、流派の遺漏を列挙すると、隆信派、板谷派、粟田口派、雪舟派、宗湛派、沈南蘋派、文晁派、森派、岸派、原派、玉蟾派、、、と枚挙にいとまがない。

12) 美術シソーラスの問題点ーシソーラスの試作とその検討／伊藤可恵、上田修一. Library and Information Science, No.22, p.47-60, 1984.

13) 美術分野のシソーラス／上田修一. 美術研究と情報処理／日仏美術学会 p.69-87, 1986.

14) 新潮世界美術事典. 東京：新潮社,1985.に改訂。

15) デスクトップパブリシング(DTP)ソフトの１つで数式等フォントが多彩、レイアウト自在で、目次、注を自動作成してくれる、理工系のﾍﾞｽﾄｾﾗｰ。

16) University of Tsukuba Online Processing InformAtion のデータベースには学術文献索引、抄録情報を主に1992年5月現在29種約4930万レコードあり、全国の大学等で検索できる。

17) 日本学術資料総目録：美術工芸／市古貞次他監修　東京：朝日出版社, 1988.　本書は1982年の全国1981の美術館・博物館の収蔵に30万件に1988年に1135館2万件を増補した収蔵カタログ。絵画、彫刻、建築、金工、刀剣など11分野の作品名の50音順に配列、作者別、博物館別索引もある。

18) 芸術・美術に関する17年間の雑誌文献目録：昭和23年〜昭和39年／「雑誌文献目録」編集部編：国立国会図書館監修. 日外アソシエーツ, 1981. 本書は雑誌記事索引人文・社会科学編(注6)の芸術・美術関係を収録。以後、昭和40〜49年、50〜59年が発行されている。

19) 國華索引：1-1029号／國華社 1981. 雑誌國華の1号から92年分の総索引。

20) 日本東洋古美術文献目録／東京国立文化財研究所美術研究部（美術研究所）. 中央公論美術出版, 1969.　本書は「東洋古美術文献目録／美術研究所編（明治〜昭和11年収録）の続編で昭和11年〜40年までの1200誌、4万件の論文が収録されている。昭和41年からは「日本美術年鑑」巻末に収録される。

21) 日本美術事典／谷信一：野間清六編. 東京堂出版,1952.

22) 日本絵画史図典／山根有三監修. 福武書店, 1987.

23) 本朝画史／狩野永納著. 吉野屋惣兵衛版, 1693.

24) 増訂古書備考／朝岡興禎著：太田謹補. 東京,弘文館. 1902.

25) 扶桑名畫傳／堀直格著：黒川眞頼他校閲. 京都：哲学書院,1899.

26) 原色図典日本美術史年表／太田博太郎他監修. 東京：集英社,1991.

27) 日本美術史事典／石田尚豊他監修. 東京：平凡社, 1987.

28) A dictionary of Japanese artists : painting, sculpture, ceramics, prints, lacquer / Laurence P. Roberts. Tokyo : Weatherhill, 1976.

29) 近代日本美術事典／河北倫明監修. 東京：講談社, 1989.

30) dbase3+は日本アシュトンテイトの関連型データベースソフト。

31) dBXLはWordTech Systems社のdBase3+の互換ソフトで、dBase3+の諸機能に図表機能等を加え、廉価で発売している。

32) ATOK6はベストセラーのパソコンワープロソフト一太郎ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ3に付随する日本語FEPで単体でも発売している。

33) 大久保逸雄は"アート・ドキュメンテーション序説"、アート・ドキュメンテーション研究 No.1,p.13, 1992でウォルター論文のAATの採用８館を紹介している。

34) 検索システムと索引言語：美術史学の立場から／島尾新　美術研究と情報処理／日仏美術学会. p.116-128, 1986.

35) 日本美術絵画全集. 1-25. 東京：集英社,1977- 室町から江戸まで35人に代表される画家・流派の美術全集。典拠資料を可能な範囲記載している。